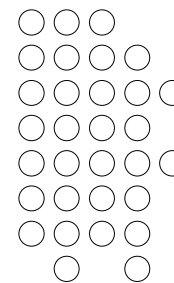


報告者の評価（1－3）



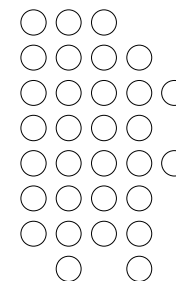
〔監視（今後の取組み）〕

- ・ 国民生活センターのサイトには、リコール情報だけでなく、全ての「社告」情報が掲載されているように見える。また様々な業種が一纏めになっており、ユーザーにとって利用しにくい。

具体的には：

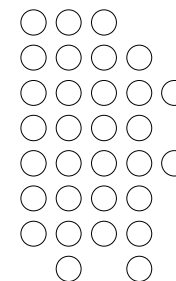
1. 家電製品、ガス石油機器、衣料品、食品など、製品分類ごとのリコール情報について、専門に一覧できるサイトの設置が望まれる。

報告者の評価（1－3） 続き



2. 製品別リコール情報の整備は、国民生活センターのサイトの検索機能整備も一つの方法ではあるが、担当省庁または機関が責任を持って整備するべきものではないか。
3. 事業者が自主的に行うリコールの告知と、排除命令等による広告は、本来は別々に取り扱うべきものであり、一覧できるサイトも別に設けるべきものではないか。

報告者の評価（1－4）

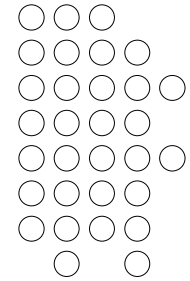


〔監視（今後の取組み）〕

- ・ 同一の事案と思われる情報が、経済産業省、NITE、国民生活センターのサイトに掲載されている例があった。
また経済産業省は新サイトを立ち上げた。ここでのリコール情報は5月14日以後のもののみとしているが、同じ内容の情報が引き続きNITEにも掲載されている。

重大な事案は過去分も掲載すべきではないか。
また同じ事案を両方に掲載する必要はないのではないか。

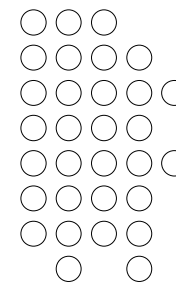
報告者の評価（1－5）



〔監視（今後の取組み）〕

- ・ 国土交通省のサイト以外は、情報検索機能が不十分と思われる。

他のサイトも、リコール時期、製品分類、商品名、などで絞り込み検索が可能にすべきではないか。



報告を担当する施策（その2）

（1）リコール制度の強化・拡充

（平成18年度検証・評価・監視による追加部分）

① 自動車のリコールに関する不正行為の再発防止対策を引き続き着実に実施する

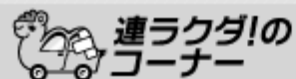
〔国土交通省〕

自動車のリコール・不具合情報

国土交通省
自動車交通局技術安全部審査課

トップページ

- トップページ
- リコール情報検索
- 自動車不具合情報ホットライン
- 不具合情報検索
- よくあるお問い合わせ
- 公表資料
- 自動車を安全に使うためには
- お知らせ



安全性能でえらびませんか

自動車アセスメント



クルマの異常を、連ラクダ!
自動車不具合情報
ホットライン

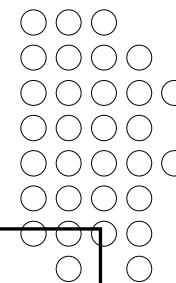


皆様の声は、メーカーがきちんとリコールしたり、メーカーのリコール隠しを防ぐために活用します。

新着情報

- 平成19年5月14日
[平成19年度のリコール届出件数及び対象台数を更新しました](#) **公表資料**
- 平成19年5月9日
[平成18年12月分までの不具合情報が検索可能になりました](#) **不具合情報検索**
- 平成19年3月29日
[よくあるお問い合わせを更新しました](#) **よくあるお問い合わせ**
- 平成19年3月29日
[平成18年度路上故障車両の実態調査結果を掲載しました](#) **自動車を安全に使うためには**
- 平成19年3月29日
[「リコールに係る技術的な検証」のご紹介](#) **お知らせ**
- 平成19年3月19日
[連ラクダ!のコーナーにラジオCM情報を掲載しました](#) **連ラクダ**

報告者の評価（2-1）

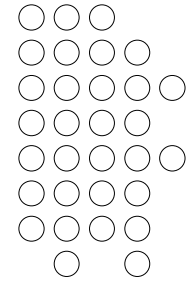


検証（進捗状況）

○情報収集体制の強化

- 自動車不具合情報ホットラインのPR活動
： 広報活動は評価できる
- メーカーから四半期ごとに報告を受けた
： 活動状況が分りにくい。概要だけでも公表すべきではないか。
- 運送事業者から運行支障事故の報告を受けた
： 活動状況が分りにくい。概要だけでも公表すべきではないか。

報告者の評価（2-1）続き



検証（進捗状況）

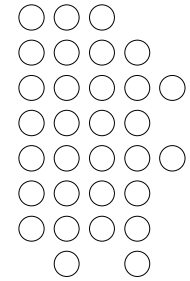
○集中的な監査の実施

： 監査状況が分りにくい。概要だけでも公表すべきではないか。

○技術的検証の実施

： 検証の状況が分りにくい。概要だけでも公表できないか。

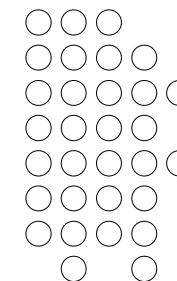
報告者の評価（2-2）



評価・監視（今後の取組み）

- 「再発防止対策の実施以後、自動車メーカー等による不正行為は発生していないことから、対策は有効に機能している」との行政の評価であるが、今後もこれらの不正行為防止対策を着実に実施していただきたい。
- 不具合情報ホットラインへの情報提供をさらに促進するための施策として、データ掲載の迅速化を願いたい。

報告者の評価（2-2）続き



評価・監視（今後の取組み）

- ・ 「自動車のリコール・不具合情報」のサイトは内容や構成面で国内ではトップランナーと言える。
しかしNHTSAの苦情検索のサイト等と比較して改善の余地は多いと思われる。研究と改善を継続願いたい。
（不具合情報量の拡大、公表の迅速化、調査結果のより積極的な公開、等）

以上